



尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

校長通信

輝け！シン尾花沢中

ゆくてののぞみ 語りつつ 自律をめざす わが学園

第123号
令和7年
11月12日

福原中学校閉校記念式典

11月8日（土）に、福原中学校の閉校記念式典が行われ、尾花沢中学校の代表として出席してきました。

尾花沢市立福原中学校閉校記念式典



■鈴木和典校長による式辞の概要

- ・福原中学校はこれまで、「敬愛」「協力・努力」「自学」「自修」を校訓として学校教育が行われ、79年間の歴史の中で429名の教職員が勤務し、7136名の生徒を輩出してきた。
- ・学校の歴史に触れることで、福原中学校がこの地とともにあり、多くの方々に支えられてきたことを実感し、学校に関わられた全ての方々への感謝の気持ちが生まれてくる。
- ・学校・子供と地域との連携の中で、絆・伝統・文化・ふるさと愛が育まれてきた。これらを基盤とし、来年度からは、未来への強い思いを、尾花沢中学校のスターとして形にしてほしい。

■渡辺翔斗さんによる生徒会長挨拶の概要

- ・79年という時の流れの重みを感じずにはいられない。
- ・全校生徒49名という小さい学校であるが、一人ひとりが輝けば大きな学校にひけをとらない。
- ・今年度は、生徒会スローガンを「アンカー」とし「最後までやりきろう」という想いで、尾花沢中でのスタートを素晴らしいものにするために、合唱を中心に頑張ってきた。
- ・今後も、福原に生まれ、福原中で学んだことを誇りにしていく。
- ・福原中の名が消えることは深い悲しみであるが、尾花沢中での新たなスタートを自分の成長に変えていきたい。



福原中生が誇りにしている合唱では『僕のこと』『変わらないもの』が披露されました。福原中生の想いが「ああ なんて素敵なものだ」「僕は僕として、いまを生きていく」「君と出会った幸せを かみしめながら歩いていこう」などの歌詞に投影されているようでした。



そして、最後に参加者全員で『ふるさと』『校歌』を歌って式典は終了しました。

あと5ヶ月ほどで、尾花沢中学校は市内唯一の中学校、まさにシン尾花沢中となります。今年度の本校の重点は、福原中学校を迎える心構えを持つことでした。閉校記念式典に出席し、福原中の皆さんを迎えることの重みを実感するとともに、これから尾花沢市の未来を担う人材の育成について決意を新たにしたところです。

15日（土）には市PTA連合会のソフトバレーボール大会での交流も予定されています。今後も、福原中学校との統合について、保護者の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

【文責：校長 工藤雅史】